

# 11 用語解説

	用語	解説	初出頁
あ	アスベスト	「石綿」と呼ばれる天然に存在する鉱物で、耐熱性、耐薬品性、電気絶縁性等に優れ、工業用、建築物用など用途が広い一方、石綿肺(アスベスト肺)、肺がん、悪性中皮腫等の原因となります。国内では平成16年10月に原則として建材への使用が禁止されています。	50
	一般廃棄物	産業廃棄物以外の廃棄物で、「ごみ」と「し尿」に分類されます。また、「ごみ」は商店、オフィス、レストラン等の事業活動によって生じた「事業系ごみ」と一般家庭の日常生活に伴って生じた「家庭ごみ」に分類されます。	5
	ウォームビス	暖房に頼りすぎず、冬のオフィスを暖かく、快適に過ごすビジネススタイルのことで、重ね着などをして、効率的に体感温度を保つことをいいます。	59
	エコアクション21 (EA21)	環境省のガイドラインに基づく認証・登録制度で、中小企業等においても容易に環境配慮の取組を進めることができるよう、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告をひとつに統合した環境配慮の手法です。	26
	エコドライブ	環境負荷の低減に配慮した自動車の運転方法で、アイドリングストップや加減速の少ない運転、タイヤの空気圧の適正化などに心がけた運転を指します。	28
	エコファーマー	堆肥等の土づくりとして、化学肥料や化学農薬を低減し、環境に配慮した農作物の生産計画を作成し、その計画が県知事から認定された農業者の愛称をいいます。環境保全型農業導入資金や税制上の特例措置が受けられます。	36
	エネルギーミックス	発電設備のタイプには、水力、石油火力、石炭火力、LNG(液化天然ガス)火力、原子力、太陽光や風力等の新エネルギーなどさまざまな種類があり、それぞれの特性を踏まえ、経済性、環境性、供給安定性などの観点から電源構成を最適化することを「ベストミックス」または「エネルギーミックス」といいます。	19
	オオキンケイギク	北米原産の多年草で、5月~7月にかけて黄色のコスモスに似た花を咲かせます。強靱でよく生育することから、かつては工事の際の法面緑化に使用されたり、苗が販売されたりしていました。しかし、あまりに強く、いったん定着してしまうと在来の野草の生育場所を奪い、周囲の環境を一変させてしまうため、平成18年に外来生物法に基づく特定外来生物に指定され、生きたままの運搬や栽培、譲渡などが原則として禁止されました。	68

	用語	解説	初出頁
	温室効果ガス	太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあるガスのことをいいます。「京都議定書」では、温暖化防止のため、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素のほかハイドロフルオロカーボン(HFC)類、パーフルオロカーボン(PFC)類、六ふっ化硫黄が削減対象の温室効果ガスと定められています。	3
か	カーシェアリング	一定エリアで、自動車を複数の会員が共同で利用する自動車の利用形態のことをいいます。利用者は自ら自動車を所有するのではなく、「共有=シェア」して「使用」という仕組みで、マイカーを所有しないため、経済的にも地球環境にもやさしい新しい車の使い方として取組が広がりつつあります。	28
	カーボンオフセット	日常生活や経済活動において、どうしても排出が避けられない温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方です。イギリスをはじめとした欧州、米国等での取組が活発であり、我が国でも民間での取組が広がりつつあります。	27
	家電リサイクル法	一般家庭や事務所から排出された家電製品(エアコン、テレビ(ブラウン管、液晶・プラズマ)、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機)から、有用な部分や材料をリサイクルし、廃棄物を減量するとともに、資源の有効利用を推進するための法律です。	4
	カドミウム	人体にとって有害な金属で、日本ではカドミウムによる環境汚染で発生したイタイイタイ病が問題となりました。発がん性物質としても知られています。	48
	環境マネジメントシステム	企業や行政などの組織が環境負荷の低減等の環境活動を継続的に推進するための仕組みで、組織の体制、計画、責任、手順、プロセスが明確化されたものです。	29
	カンクン合意	平成22年(2010年)12月にメキシコのカンクンで開催された国連気候変動枠組条約第16回締約国会議(COP16)で採択された、平成25年(2013年)以降の地球温暖化対策の国際的な枠組みのことです。京都議定書を離脱した米国、温室効果ガスの削減義務を負わない中国やインドなどの新興国にも排出削減を求めています。	18
	間伐	林業で、林木の密度を調節して生育を助けるため、また主伐前に収穫を得るため、林木の一部を伐採することをいいます。	20
	京都議定書	平成9年(1997年)12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)で採択された気候変動枠組条約の議定書を指します。平成17年(2005年)2月に発効し、我が国では平成20年(2008年)からの第一約束期間において6%の温室効果ガスの削減を約束しています。また、平成25年(2013年)からの第2約束期間においても自主的に削減することにして	17

	用語	解説	初出頁
	京都議定書目標達成計画	「京都議定書」の発効を受け、「地球温暖化対策推進法」に基づき、6%の削減約束を確実に達成するための必要な措置として策定されたものです。	17
	クールビス	夏季を快適に過ごすためのビジネスファッションのことで、ノー上着やノーネクタイのような軽装スタイルをいいます。温室効果ガス削減のために、夏の職場の冷房時の室温を28度に設定し、その中で快適に業務を行えるように、環境省が提唱しました。	59
	グリーン経営認証	交通運輸事業者を対象に、環境保全に取り組むために創設された環境認証制度のことで、交通エコロジー・モビリティ財団が認定機関となり、一定のレベル以上の環境保全の取組を行っている事業所に対して認証・登録されます。	26
	グリーン購入	製品やサービスを購入する際に、価格や品質、利便性、デザインだけでなく、環境への影響を重視し、環境負荷ができるだけ少ないものを優先して購入することをいいます。	27
	グリーン・ブルーツーリズム	緑豊かな農山村地域で農林業の体験をしたり、島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実したマリンライフの体験をしたりすることで自然、文化、人々との交流を楽しみ、心と体をリフレッシュさせる滞在型の余暇活動のことをいいます。	37
	光化学オキシダント	工場の煙や自動車の排出ガスなどに含まれる窒素酸化物、炭化水素及び揮発性有機化合物などが、太陽の紫外線により光化学反応を起こし、光化学オキシダントという有害な物質が生成されます。光化学オキシダントが、ある濃度以上になると目がチカチカしたり、のどが痛くなったり、植物に悪い影響が出たりすることがあります。	44
	コージェネレーション	一種類のエネルギー源から電気や熱という2つの異なるエネルギーを同時に発生させ、それを利用することをいいます。熱電併給システムともいい、電力需要と熱需要の適切な組み合わせが可能な場合には総合エネルギー効率が80%に達するものもあります。	3
さ	再生可能エネルギー	太陽光や太陽熱、風力、地熱、バイオマス、水素など枯渇の心配がない自然エネルギーのことをいいます。ダムなどの建設を伴わない小規模の水力発電も再生可能エネルギーに含まれます。	3
	再生可能エネルギー固定価格買取制度	再生可能エネルギー源(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス)を用いて発電された電気を、国が定める固定価格で一定の期間電気事業者調達を義務づけるもので、平成24年7月1日にスタートしました。	3
	里山	自然地域と都市地域の間位置し、集落とその周辺の森林や農地、ため池などで構成される地域です。また、良好な景観、文化の伝承の観点からも重要な地域です。	4

	用語	解説	初出頁
	里海	自然地域と都市地域の間際に位置し、藻場や干潟などが当たる沿岸地域で、里山と同じく人と自然が共生する場所です。人手が加わることにより、豊かで多様な生態系や生物多様性が保全されることで、多くの恵みを与えてくれます。	4
	省エネ診断	工場やビル等を、省エネルギーの視点から、建物の仕様や設備システム及び現状のエネルギー使用量について調査・分析し、それぞれの建物に合った省エネルギー手法を見出すことをいいます。	59
	水源かん養機能	雨水等を地下に浸透させ、保持し、水源を確保する機能のことをいいます。かん養された地下水は浄化され、長時間かけて河川に還元されます。かん養機能を有する森林や水田等が減少すると、保水・防災機能が低下し、洪水や渇水を引き起こす原因となります。	37
	スマートコミュニティ	電力需給両面での変化に対応し、電力利用の効率化を実現するために、情報通信技術を活用して効率的に需給バランスをとり、生活の快適さや電力の安定供給を実現する電力送配電網のことをスマートグリッドと呼び、それを活用した地域単位での取組をスマートコミュニティと呼びます。	3
	3R	3R(スリーアール)は、環境と経済が両立した循環型社会を形成していくための3つの取組の頭文字をとったものです。3Rは、リデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の順番で取り組むことが求められています。	12
	生態系	太陽光線、土、水、大気、野生生物の5つの要素が互いに関係しあいながら循環していることをいいます。	2
	生物多様性	地球上の生物の種とその生息環境、遺伝子の多様さをいいます。生態系は、多様な生物が生息するほど健全であり、安定しているといえます。	4
た	ダイオキシン類	「ダイオキシン類対策特別措置法」では、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)とポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)に加え、同様の毒性を示すコプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)が定義されています。生殖、脳、免疫系などに対して生じ得る影響が懸念されており、研究が進められています。	44
	代替フロン	オゾン層の破壊力が大きい特定フロン(CFC類)に替わり生産されているフロン類のことをいいます。代替フロン類はいずれも温室効果が極めて高く、HFC類は「京都議定書」で削減の対象ガスに加えられています。	21
	低公害車	電気自動車、天然ガス自動車、メタノール自動車、ハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車、燃料電池自動車など大気汚染物質の排出が少なく、環境への負荷の少ない自動車を総称していいます。	28

	用語	解説	初出頁
	低燃費車	「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく燃費基準(トップランナー基準)の早期に達成した車のことをいいます。ディーゼル車については平成17年(2005年)目標、ガソリン車については平成22年(2010年)目標を早期に達成した車をいいます。	59
	低炭素社会	地球温暖化の原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素を極力排出しないようにするため、現状の産業構造やライフスタイルを変えることで低く抑える社会のことをいいます。	3
な	燃料電池自動車	水素と酸素を化学反応させて電気をつくる「燃料電池」を搭載し、モーターで走行する自動車のことをいいます。従来のガソリン車のように、地球温暖化の原因となるとされている二酸化炭素や大気汚染の原因となる窒素酸化物などを発生させない、「環境にやさしい車」です。	67
は	バイオマス	「バイオマス」とは、生物資源(bio)の量(mass)を表す言葉であり、「生ごみや木くず、落葉などの生物体から構成する有機物をエネルギー資源として利用するもの(化石燃料は除く)」のことをいいます。廃棄物系バイオマスとしては、廃棄される紙、家畜排せつ物、食品廃棄物、建設発生木材、下水汚泥などがあります。	67
	ヒートポンプ	二酸化炭素やオゾンなどの冷媒を圧縮し液化させると発熱し、膨張し気化させると吸熱します。この熱の移動を利用した冷暖房などを行うシステムのことをいいます。	59
	賦存量	ある資源について、理論的に導き出された総量のことをいいます。	27
	浮遊粒子状物質	大気中に浮遊する粒子状の物質(浮遊粉じん、エアロゾルなど)のうち粒径が10 $\mu$ m(マイクロメートル: $\mu$ m=100万分の1m)以下のものをいいます。	44
	ペアガラス	2枚の板ガラスの間に乾燥空気を入れて密封し、組み立てたもので、断熱性・遮音性に優れ、結露防止にも効果があります。乾燥空気の代わりにガスを注入したり、真空にして断熱効果を高めたものもあります。	59
	ペレット	おがくずや木くずなどの製材所廃材などに圧力を加えて固めた、小粒の固形燃料のことをいいます。	67
	ペレットボイラー	おがくずや木くずなどの製材所廃材などに圧力を加えて固めた木質ペレット燃料を使うボイラーです。化石燃料を使わないので二酸化炭素の排出量抑止に大きな効果があります。	26
	ポータルサイト	ホームページへアクセスする時の入り口となるウェブサイトのことをいいます。	60
ま	緑のカーテン	建築物等の壁面をつる性の植物などで覆う緑化のことをいいます。これにより、窓から入り込む日差しを遮って、室温の上昇を抑制する効果があります。	26

	用語	解説	初出頁
	メタン	最も簡単な飽和炭化水素で天然ガスの主成分です。沸点は摂氏マイナス161.4度で水に不溶。無色・無臭です。点火すると青い炎を出して燃えます。生ごみやし尿汚泥など、バイオマス(有機物)が嫌気性微生物により分解され、発酵することにより発生します。	21
	メタンガス発電	食品廃棄物等から発生するメタンガスを利用する発電方法です。メタンガスを燃やして発生する二酸化炭素の量は他の化石燃料より少ないです。	26
	木質バイオマス	木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」といいます。木質バイオマスには、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類があります。	29
や	有害鳥獣	法令による有害な鳥獣の定義はありませんが、一般的には人間生活に対し、生命的、経済的に害を及ぼすものを有害鳥獣とっており、鳥獣本来の食性によって、人、家畜、農作物、樹林、農林水産物等を食害するものが大部分です。	35
	有機栽培	化学肥料を使う農法に対して、堆肥やコンポストなど有機肥料を使い、無農薬または低農薬で作物を作る農法のことをいいます。	37
わ	ワークショップ	さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめ上げていく場のことをいいます。ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営される形態が一般的です。	62
B	BDF(バイオディーゼル燃料)	植物性油、もしくは動物性油から作られた軽油と同等の燃料で、廃食油を精製することでも作ることができます。ディーゼルエンジンを有する車両、船舶、農耕機具、発電器等に使用されています。石油燃料(化石燃料)の代替燃料として使用することにより、環境問題やエネルギーの海外依存率など様々な問題の解決策になるとして、現在、世界中で注目を浴びています。	28
	BOD(Biochemical Oxygen Demand)	河川水や工場排水中の汚染物質(有機物)が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要な酸素量のこと、単位は一般的にmg/Lで表わします。この数値が大きくなれば、水質が汚濁していることを意味します。	46
C	CASBEE(建築物総合環境評価システム)	産学官共同で開発された、住宅・建築物の居住性(室内環境)の向上と地球環境への負荷の低減等を、総合的な環境性能として一体的に評価を行い、結果を分かり易い指標として示すシステムのことをいいます。	59

	用語	解説	初出頁
E	E S D ( Education for Sustainable Development)	環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。	60
F	Fun to share	地球温暖化対策のため、豊かな低炭素社会づくりに向けた知恵や技術をみんなで楽しく共有し発信する気候変動キャンペーンのことです。	27
I	IPCC(地球変動に関する政府間パネル)	人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、昭和63年(1988年)に世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)により設立された組織です。	18
	ISO14001	国際標準化機構 (ISO : International Organization for Standardization)が定めた環境マネジメントシステムに関する国際標準規格のことをいいます。企業や団体が、環境方針、目標、計画及びその実施体制を定め、計画を実施するとともに、その実施状況や環境改善効果を点検し、必要に応じて計画や実施方法を見直す仕組みを導入することにより、継続的改善を進めるものです。	26
L	LCA(ライフサイクルアセスメント)	原材料採取から製造、流通、使用、廃棄に至るまでの製品の一生(ライフサイクル)で、環境に与える影響を分析し、総合評価する手法です。製品の環境分析を定量的・総合的に行う点に特徴があります。	59
P	PCB(ポリ塩化ビフェニル)	ベンゼン環が2つつながったビフェニル骨格の水素(H)が塩素(Cl)で置換されたものの総称で、置換塩素数と位置により計算上209種の異性体が存在します。熱安定性、電気絶縁性に優れ、工業製品に利用されていましたが、毒性物質であることがわかり、製造・輸入が禁止となり、平成13年に「PCB 処理特別措置法」が制定され、適正処分が義務づけられました。なお、異性体であるコプラナーPCB は、ダイオキシンに類似しているため、ダイオキシン類として分類されています。	50
	PDCAサイクル	事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つで、Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価) → Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善します。	30
	PM2.5	微小粒子状物質のことで、大気中に浮遊する微粒子のうち、粒子径が概ね2.5μm以下のものをいいます。	4